

就任挨拶並びに所信表明  
(我に才略無く我に奇無し)

令和5年3月1日

皆様、おはようございます。

傍聴の皆様におかれましては、早朝から本議場にお越しいただき、誠にありがとうございます。心から御礼を申し上げます。

また、本日は、令和5年第1回川島町議会定例会を招集いたしましたところ、議員各位におかれましては、公私共にご多用の中、御出席をいただき、誠にありがとうございます。

本定例会におきまして、令和5年度予算案をはじめ、町政の重要案件につきましてご審議いただけますことは、町政進展のため、誠にご同慶に堪えないところでございます。

さて、私はこのたびの川島町長選挙におきまして、多くの皆様からのご支持と、心温まるご厚情を賜り、<sup>みたび</sup>三度、町政を担わせていただくことになりました。1期目、2期目と、私を支えていただいた町民の皆様、並びに議員各位、そして、職員には深く感謝をしているところでございます。今回、特に、投票された約7割の皆様からご支持をいただいたことには、素直な驚きと少しのとまどい、そして、深い、深い感謝を覚えたところでもございます。これに驕ることなく、町長として誠実に、真摯に務めを果たしてまいります。

ただ、今回の選挙戦を振り返ってみますと、私について少なからず、様々な言葉、流言飛語が飛び交ったようであります。その結果、私を支持するとなれなかった方もおるやに聞いております。改めて、今回の選挙結果などを含めて思いを馳せ、そういった方々にも一緒にまちづくりに参画いただけたらと考えております。

いずれにいたしましても、私に対する皆様方の期待を裏切ることのないよう、又、「これからが**本当の戦いである。**」と肝に銘じ、しっかりと町政を進めてまいり所存でございます。どうぞ、よろしくお願い申し上げます。

それでは、議長のお許しをいただきましたので、令和5年第1回川島町議会定例会の開会にあたりまして、所信の一端を述べさせていただきます。

わたくしは、町長に就任以来、2期8年間にわたり、「他の自治体に伍して劣らない、川島町にする。」との強い信念のもと、幾多の課題に真正面から向き合い、愚直に、懸命に、まさに「一意専心」で町政を進めてまいりました。おかげさまで、町議会をはじめ、町民の皆様のご理解とご支援のもと、多くの課題を解決、解消することができました。しかしながら、社会情勢は刻々と変化し、気候変動問題をはじめ、エネルギー

問題やロシアによるウクライナ侵略、新型感染症、少子高齢化、空家問題等々、様々な問題、課題が発生しており、その数はとどまるところを知りません。自治の最前線にいる我々地方自治体にも、その影はひたひたと迫っております。わたくしはこれからも、これらの諸課題に逃げることなく、これまでと同様、真正面に向き合い、町議会や町民の皆様のご指導ご支援をいただきながら、職員と一丸となってまちづくりにまい進する決意であります。

「我に才略無く我に奇無し。常に衆言を聴きて宜しき所に従ふ。」

これは、幕末の四賢公と謂われた、第16代越前国福井藩主、松平春嶽（慶永）の七言絶句の一部であります。

「才知に富んだはかりごとも奇抜な考えもない。常に、周りの意見をよく聴いて、良い方向を見い出すまで。」という意味だそうです。

まちづくりに近道などございません。愛する川島町のため、愛する川島町民のため、そして、今、町に暮らす人のために、10年後、20年後、この町に暮らす人のために、全身全霊を傾けて職責を果たしてまいります。

私は、3期目の職を「まだ続けてよい、続けなさいと、天が私に与えた使命、**天命**」ではないかと感じております。

どうか、町民の皆様、議会議員の皆様には、これまで以上に、私の思い、理念へのご理解とご支援を賜り、光り輝く川島町を創りあげられるよう、心からお願いを申し上げます、3期目にあたっての所信といたします。

ご清聴、ありがとうございました。

令和5年3月1日

川島町長 飯島和夫